

多文化共生社会づくり推進事業成果報告会《外国人医療支援グループ》

たぶんかきょうせいしゃかいづくりすいしんじぎょうほうこくしょ 多文化共生社会づくり推進事業報告書

1. 委託業務名・概要

(1) 業務名 地域で支える外国人の健康推進

(2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

地域の通訳者やブラジル人学校教員を中心に外国籍の子どもたちの健康をテーマにしたワークショップを開催し、日本人支援者や関係者との意識の共有を計る。ワークショップで出された意見を当団体の自主事業である「健康相談会」に反映させる。地域の通訳、ブラジル人学校、支援グループが外国人の健康増進のために必要なスキルや仕組みについて共に考える。

2. 実施事業について

(1) 実施時期：平成19年7月1日（日）～平成20年2月28日（木）

(2) 実施地域：豊田市保見ヶ丘 保見団地

(3) 事業の具体的内容

地域の中で外国籍住人の依頼を受け病院や役所へ付き添う通訳さんや、ブラジル人学校の教員及び、外国人医療支援グループスタッフが、外国籍の子どもたちの健康をテーマに4回のワークショップを実施した。ワークショップを通して見えてきた課題を「健康相談会」に反映させるよう検討した。さらに、ブラジルの医療に詳しい医師の講演から、ブラジル人の目から見た日本の医療の問題点を知ることができた。まとめとして、参加者それぞれの立場で在住外国籍住民の健康推進のために何が必要で、何ができるのか話し合った。延べ90人の参加を得た。

	日時	テーマ	参加人数
第1回 ワークショップ	8月26日 11時～13時	子どもが病気になったとき	24人
第2回 ワークショップ	9月30日 11時～13時	地域で支えるために何ができるか	27人
第3回 ワークショップ	10月21日 10時～12時	講演「ブラジルの医療事情」	16人
第4回 ワークショップ	12月9日 11時～13時	課題解決のためにどうしたらよいか	23人

多文化共生社会づくり推進事業成果報告会《外国人医療支援グループ》

3. 実施結果（実施の効果等、数値を入れるなど具体的に）

(1) ワークショップ参加者

	ブラジル人 学校	通訳者	医療支援 グループ	一般	合計
第1回ワークショップ	0	8	6	10	24
第2回 "	4	10	6	7	27
第3回 "	1	8	6	1	16
第4回 "	3	5	5	10	23
の 延べ人員	8	31	23	28	90

(2) 実施内容

	テーマ	内容	効果
第1回	子どもが 病気になる とき	外国籍住民が病院にかかる時に壁になる言葉の問題、医師の対応、薬等の問題や、ブラジル人学校の教師が子どもの健康に関して懸念していることなど様々な問題が幅広く出された。	それぞれの立場で感じている問題点を互いに共有できた。立場の違いを超えて協力して取り組む意識ができた。
第2回	地域で支える ために何が できるか	第1回目で出された問題に対し、具体的な対応策や望まれる仕組みについて話し合った。健康アンケート（健康相談会用）の内容や表現を検討した。	行政に頼るだけではなく、自分たちでできることを考え、取り組もうとする姿勢が見られた。健康アンケートにブラジル人の視点を反映させることができた。
第3回	講演 ブラジルの 医療事情	独立行政法人労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター 研究情報部 奥沢栄一医師にブラジルの医療事情について講演を頂いた。	ブラジルの医療事情、特に階層、地域による違いがあることがわかった。それを踏まえ、ブラジルの人たちの目に映る日本の医療の問題点を知ることができた。
第4回	課題解決の ためにできる こと	第1回目、2回目に共有した課題に対し、通訳、ブラジル人学校の教師、医療支援グループのメンバーや関係者がそれぞれの立場でできることを具体的に話し合った。課題解決のためには、言葉や情報の問題だけでなく外国籍住民に対する地域住民の理解が不可欠であることが意見として出された。	地域の通訳さんや、ブラジル人学校の先生から、情報提供の方法や、日本語の習得の必要性など具体的な提案があった。4回のワークショップと健康相談会を通して、立場を超えた率直な話し合いができた。

(3) 総合効果

最初は子どもの健康をテーマに始めたが、4回のワークショップを通じて、医療の問題だけに留まらず、幅広く課題をとらえ、自分たちでできる問題解決の方策をさぐることができた。(日本語教室の利用、在住外国人情報の集積、医療通訳の養成など)
当初の参加予定者に留まらず、行政関係者、ボランティアなど幅広い方々の参加があり、在住外国人の医療問題への理解を得ることができた。今後のネットワークづくりに役立てたい。

4. 事業の特質(工夫した点などを事例を上げて具体的に)

(1) ワークショップの形式で、参加者全員の意見を聞き、検討する工夫をした。

地域のブラジル人通訳、ブラジル人学校の先生、医療支援グループスタッフ、行政関係者、その他希望者など様々な立場の皆さんに参加を呼びかけた。
第1回の問題提起から第4回の課題解決の方策まで、テーマを共有しながら活発に討議した。

(2) とよた市民センターのつなぎすとにファシリテーターをお願いし、議事を進行した。

立場の違いから相手を責めることにならないよう、公平な立場でスムーズに議事進行できるつなぎすとにファシリテーターをお願いし、非常に良かった。

(*つなぎすと：とよた市民活動センターが養成した活動の中間支援者)

ワークショップに参加経験の少ない人も討議に参加でき、問題解決のために自分達で何ができるかに考えることができた。

(3) 「ブラジルの医療事情」についての講演を実施

ブラジル赴任経験があり、ブラジルの医療事情に詳しい労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター 研究情報部、奥沢栄一医師に講演をお願いした。さらに、健康相談会にも参加いただいた。

スライドを交えて日本語とポルトガル語で「ブラジルの医療事情」のお話を頂いた。階級、地域により差が大きいという医療制度の違いが分かった。その上で日本の医療を鑑みると、在住ブラジル人が日本の病院や医師の対応について、疑問や不安を抱く理由が理解できた。

(4) 今後のネットワークづくりに寄与

健康相談会のアンケートを検討し、問題解決の方策を検討する中で、ブラジル人の意思により自ら取り組み、できることから始めたいというようになってきた。

外国人医療支援グループとしても今回のワークショップの参加者を中心に、医療問題についてのネットワークを作り、他のボランティアグループとも協力し合い活動を展開したい。

5. 今後の課題

(1) 情報交換の場づくり

平日は仕事に追われる保護者が、子どもの健康、教育、福祉などの情報をえられ、気軽に相談できる場が必要である。情報交換の場を創ると共に、地域の人たちとの交流を図り理解を促進するために、交流館の利用を検討していく。

多文化共生社会づくり推進事業成果報告会《外国人医療支援グループ》

ぎょうせいじょうほう でんたつ えんかつ
行政情報の伝達を円滑にするために、ブラジル人学校を情報収集の場として利用する
アイデアが出た。

(2) 医療関係のネットワークづくり

こんかい わーくしょっぷが、つうじておおく もんだい かいけつ ほうさく ていあん
今回のワークショップを通じて多くの問題、解決の方策が提案されたが、ワークショップの
さんかしゃ ちゅうしん いりょうかんけい ネットワークを作り、ひとつひとつのテーマに優先順位をつけて実現
参加者を中心に医療関係のネットワークを作り、一つ一つのテーマに優先順位をつけて実現
するよう活動を展開したい。

(3) 医療通訳講座の開設

つうやく かた いりょうつうやく こうざ きぼう
通訳の方たちが医療通訳の講座を希望しているので、今回の参加者を中心に講座開設を検討
したい。

6. その他参考事項

(1) 健康相談会の概要

がつ にち にち の午後、保見団地142棟第1集会所で、例年のとおり外国人の子どもたちの健康相談会を行なった。

いし めい かんごし ほけんし めい つうやく めい いっぱん めい たいせい やく めい じゅしんしゃ たいおう
医師2名、看護師・保健師4名、通訳5名、一般15名の体制で約50名の受診者に対応
した。

いし おくざわ いし かながわ おおはし いし しずおか けんがい ねが えな かつた こんせつていねい
医師は奥沢医師(神奈川)大端医師(静岡)を県外からお願いせざるを得なかった。懇切丁寧
に相談に応じていただいて好評であった。

おくざわえい いし ひとりつぎょうせいほうじん ろうどうしゃけんこうふくしきこう
奥沢栄一医師 独立行政法人 労働者健康福祉機構
かいがいきんむけんこうかんりせん た けんきゅうじょうほうぶ
海外勤務健康管理センター 研究情報部

おおはしこう いし やいづしりつそうごうびょういん
大端考 医師 焼津市立総合病院

かんごし ほけんし つうやく じんいんふそくぎみ けいけんしゃ おお なん たいおう
看護師・保健師、通訳も人員不足気味であったが、経験者が多く何とか対応できた。

じゅしんけつか こんご しんたい ちようし わる こ けんこう ふあん こ ばあい
受診結果は今後まとめていくが、身体の調子の悪そうな子や健康に不安のある子の場合は、
「病院に行き行って詳しく調べてもらったらどうですか」と話した。

れいねん のことであるが、問診では生活習慣や食事に関する質問が多かった。

(2) 内訳

じゅしんしゃ さいいい か にん 4 ~ 5 さい 11 にん 6 さいいじょう 32 にん 50 かい
受診者 3歳以下 7人 4~5歳 11人 6歳以上 32人 合計50人

いじょう
以上